

・ 市政について

- 議長（下村 栄君）次に、質問第11号、市政について、佐藤論征議員の質問を許します。佐藤論征議員。

〔2番 佐藤 論征君登壇〕

- 2番（佐藤 論征君）初めての質問に当たりまして、皆様方に非常に心温まるご声援をいただきまして、大変ありがとうございます。通告に従いまして順次質問をいたします。

まず初めに、2019年ラグビーワールドカップキャンプ地誘致の取り組みについてお伺いいたします。金沢議員からも本件につきまして質問がなされましたが、もう少し踏み込んで質問をさせていただきたいと思います。

母袋市長を会長とする民間主体団体「上田市にラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会」を中心に菅平高原におきましては、キャンプ誘致活動が盛り上がりを見せ始めております。また、上田市のみならず、隣接する長野市においては、2019年ラグビーワールドカップの開催地候補としても名乗りを上げる検討がなされるなど、近隣市町村においてもラグビーワールドカップへ向けて盛り上がりを見せ始めているところでございます。

そんな中、上田市においては、まだまだ市全体での盛り上がりについては、これからの課題と考えるところであります。この一世一代の機会を上田市にとりまして最大限のメリットを出す上でも、より多くの市民の皆さんに関心を持っていただかなければならないことは言うまでもありません。

そこで、お尋ねいたします。ラグビーワールドカップキャンプ地誘致に向けて市として市民の皆さんの関心をどのように高め、上田市全体を盛り上げていくか、またどのように進めていくかをお答え願います。

- 議長（下村 栄君）高橋真田地域自治センター長。

〔真田地域自治センター長 高橋 義幸君登壇〕

- 真田地域自治センター長（高橋 義幸君）2019年ラグビーワールドカップキャンプ地誘致に向けまして、市民を盛り上げていく方法等につきましてのご質問でございます。

2002年開催されました日韓共催のF I F Aサッカーワールドカップでございますが、現在の大分県日田市、旧中津江村がカメルーン共和国チームの国内キャンプ地での成功事例として報道等で紹介され、評判になったことは皆様の記憶にも残っていることかと思います。

旧中津江村は、全国、当時84カ所からのキャンプ地候補の中で、一番小さな自治体であり、施設においても最低限の条件しか満たしておりませんでした。キャンプ地に選定された一番の要因といたしましては、標高530メートル、自然環境にすぐれ、静かで事前キャンプ地のトレーニング地として最適の条件がそろっていたためと言われております。

また、当時の旧中津江村の村長さんの分析によりますと、トレーニング地の施設条件もさることながら、住民の皆さんが一体となって温かい気持ちでチームをお迎えをし、チームと村民の間で厚い信頼関係が築かれたこと、このことがキャンプ地誘致を成功に導いた大きな要因であると分析をされております。

このように、サッカーワールドカップでの国内キャンプ地の成功事例で見られるように、ラグビーワールドカップでも同様なことが考えられます。キャンプ地誘致につきましては、施設及びアクセス条件などとともに、行政、関係団体だけでなく、多くの市民の理解と協力が必要不可欠であり、地域挙げての受け入れ態勢や地域全体での盛り上がりがキャンプ地決定の重要な要素であると考えております。

こうした中、市民の関心等を高める活動といたしましては、「上田市にラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会」が、先ごろ市民の機運の醸成を図るために、全国から「ロゴマーク」を公募し、先月「ロゴマーク」が決定したところであり、今後、この「ロゴマーク」を利用してポスター、チラシ等幅広くキャンプ地誘致の周知活動を図る予定でございます。

また、市では、ことし4月、ラグビー日本代表が菅平高原での強化合宿に来られた際、上田駅前で日本代表チームの歓迎セレモニーを開催し、市民の皆様とともにキャンプ地誘致に向けた活動を盛り上げてまいりました。また、ことし1月には、市の教育委員会におきまして、千曲川市民緑地グラウンドにラグビーのゴールポスト、これを設置し、市民にラグビーへの関心を高めてもらうための活動を行っているところでございます。

一方、地元、菅平高原観光協会では、昨年12月から菅平ダム湖横に、ラグビーワールドカップのキャンプ地誘致に向けたイルミネーション、これを設置し、菅平高原にお越し、お帰りの皆様方に対してもラグビーを初めとする幅広い周知活動に取り組んでいるところでございます。

このようにキャンプ地誘致に向け、行政を初め民間での活動が連携し、いわば官民協働による「スクラム」により、市民へのラグビー等に関心を高めるための取り組みがなされてきております。

今後、市では、この官民協働による取り組みが大変重要であると認識をする中、ラグビーを地域活性化のアイテムとして市全体での取り組みに発展するよう「誘致する会」への活動補助支援を行ってまいります。それとともに、誘致に向けた市内部の専門組織の設置、またラグビー協会と協力しラグビー体験教室の開催、菅平でのラグビー大会観戦情報の提供など積極的に行ってまいりたいと考えております。

いずれにしましても、官民一体での連携を深め、ラグビーワールドカップキャンプ地誘致に向け、ラグビーに対する市民の意識の高揚を図り、市民の皆さんを中心とした市全域でのキャンプ地誘致活動につなげてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○ 議長（下村 栄君）佐藤論征議員。

〔2番 佐藤 論征君登壇〕

○ 2番（佐藤 論征君）ご答弁をいただきました。予算的なことも非常に重要となってくる部分ではございますが、やはり市民の意識が向上することが最も重要と考えるところでございます。「上田市にラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会」とさらに連携を強めていただき、より多くの市民の皆さんを巻き込み、市全体で盛り上げていただけるように今後もよろしくお願いしたいところでございます。

次に、上田市におけるラグビーの普及についてお伺いいたします。誘致活動を盛り上げていくためにも、上田市でのラグビーの普及と競技自体の知名度を向上させることが不可欠と考えるところであります。せっかく身近にラグビーがあるのにもかかわらず、ルールすらわからないことにより、ラグビーの観戦の機会を逃すなど関心がもてない状況にあります。特にこの好機に子供たちに関心を持ってもらえるような活動は大変重要と考えるところであります。

そこで、お尋ねいたします。上田市における普及について推進していくお考えはありますでしょうか。また、普及に向けての具体的な方策をお持ちかどうか、お答えをお願いいたします。

○ 議長（下村 栄君）西入教育次長。

〔教育次長 西入 直喜君登壇〕

○ 教育次長（西入 直喜君）ラグビーを多くの市民の方楽しんでいただくためのルールの普及に向けた取り組み、また子供たちへのルールの普及についての取り組みはどうかというご質問でございます。金沢議員への答弁と一部重複いたしますけれども、ご答弁させていただきます。

先般の答弁でも申し上げましたけれども、ラグビー自体につきましては、競技人口が非常に少ないという現状がございます。上田市のスポーツ振興計画におきましては、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささるスポーツ」という観点で取り組みを計画しておるところでもございます。まずは、このラグビーというものに対しまして、見る、また支えるという観点で市民に普及をしたり、また楽しんでいただく、またワールドカップキャンプ地に対する機運を高める必要があるかというふうに思っております。

先般もご答弁申し上げましたけれども、競技への関心を高めるため、トップアスリート等が上田市をこれからも訪れたときには、情報発信を積極的に行っていくということ、また市内で発行されておりますスポーツ情報誌などにラグビー競技に関する記事の定期的な掲載を依頼することなど、市民の関心が高まるよう取り組んでまいります。これによりまして、合宿等、練習試合等への参加の呼びかけもしてまいりたいと考えております。

また、ルールの普及についてでございます。子供でもタックルやスクラムをせずに気軽にラグビーに親しむことができる「タグラグビー」、また「タッチラグビー」というのが全国的に広まりつつあります。この春には上田市ラグビーフットボール協会主催で、タッチラグビーの普及を目指した教室が開催されるということをお聞きしております。また、その後には大会も開催されるということでございます。関係団体と連携しながらルールの普及、関心を高める取り組みについて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○ 議長（下村 栄君）佐藤論征議員。

〔2番 佐藤 論征君登壇〕

○ 2番（佐藤 論征君）ご答弁をいただきました。まだまだ上田市におけるラグビーの普及は、競技人口も少なく、これからようでございます。この好機に何とか子供たちに少しでも先ほどございましたタッチラグビー等を通じてラグビーへの関心を持っていただき、ラグビーの合宿地の先進地のみならず、トップアスリートを育成する先進地としても知名度を上げていかれるよう、民間団体等とともに結束を深めながら進めていく必要があると考えるところでございます。

次に、キャンプ地誘致に向けた施設建設についてお伺いいたします。今回の2019年ラグビーワールドカップのキャンプ地誘致で世界中の選手を迎え入れるのに当たり、トレーニング施設等の建設が必要と考えるところであります。また、ラグビーワールドカップのみならず、2020年の東京オリンピック開催等に向け需要の高まる高地トレーニングの受け入れ先として施設建設は急務と考えるところであります。

昨年の12月定例会でも土屋勝浩議員から施設建設に関しまして質問がなされましたが、拝察するに、近年の財政確保の難しさの問題、またそれぞれの方面からのさまざまな要望が集約し切れない等の問題から、具体的なお回答をいただけるのには至っておりません。時間的にも非常に切迫している中で、まずは検討段階から検討内容を明確化し、誰もが検討のプロセスがわかるようにしなければならないと考えるものであります。

そこで、民間専門機関や市内の民間同様施設などの協力を得て、費用対効果、イニシャルコスト、ランニングコスト等の試算を明確にするとともに、あわせて財源確保の手段について明確化し、なおかつ市民の皆さんの理解を高めるためにも、内容についてわかりやすい形で公開していくことが必要と考え、提案いたしますが、いかがお考えになりますでしょうか。

○ 議長（下村 栄君）高橋真田地域自治センター長。

〔真田地域自治センター長 高橋 義幸君登壇〕

○ 真田地域自治センター長（高橋 義幸君）関連施設に関する検討についてでございます。

菅平高原は、標高1,300メートルの準高地に位置をし、グラウンド109面を有し、夏は1,400チームを超えるラグビー、サッカー、陸上競技等のスポーツ合宿地として、年間100万人を超えるアスリートを受け入れるスポーツ観光地でございます。

ことしも昨年に引き続き、4月にはラグビージャパンが菅平高原での強化合宿が行われ、その成果からか、2015年イングランドで開催をされるラグビーワールドカップの出場がこのほど決定したところであり、来月中旬には再びジャパンチームの合宿が予定されているところでございます。

菅平高原は、準高地でのトレーニングの適地であること、また首都圏からのアクセスがいいこと、また菅平地域内にグラウンド整備の充実や旅館、ホテル、ペンション等があることなど、スポーツの合宿地として高いポテンシャルを秘めております。一方、近年、トレーニングメニューが多様化してきておりまして、屋外でのグラウンド練習に加え、屋内でのトレーニングや、マシンを使ったウェイトトレーニング、そして練習後の筋肉リカバリー等の屋内施設も必要になってきております。

そこで、市では、昨年、菅平高原でスポーツ合宿をしている社会人・大学・高校等の893チームに「菅平にとって必要な施設等」のアンケート調査を実施いたしました。アンケート結果といたしましては、施設設備に関する要望で、多い順に申し上げますと、まず人工芝グラウンド20%、体育館が15%、ウェイトトレーニング施設8%、プール4%という結果となりました。

今後、施設整備を検討していく上では、議員ご指摘の建設に係るイニシャルコスト、また維持費に係るランニングコストも考慮した中で、費用対効果を検討していかなければならないものと認識をしております。

施設整備検討につきましては、2019年のラグビーワールドカップキャンプ地だけでなく、その前後の国際的なビッグイベントでの事前合宿地誘致に大変有利になる施設であり、菅平だけでなく、市民が利用しやすく、市全体にメリットが及ぶ施設ということを心がけなければならないと考えております。

また、旧真田町により建設をされました「サニアパーク」建設時のような有利な起債が現在見当たらない中で、財源の検討も大変重要であり、昨年から国・県等関係機関に陳情、また相談を重ねてきているところでございます。

今後、市では、地元の皆さんの意向を踏まえ、アンケート調査の結果による利用者ニーズ、財源確保の見通し及び民間機関等のPFI導入も視野に入れながら具体的な施設内容の検討を進めてまいりたいと考えております。

また、それと並行して、建設後の維持管理費等が最も重要な点であることから、他自治体での事例、また民間スポーツクラブの事例及びシンクタンクなどによる費用対効果を含めた施設整備の経済効果調査も考慮しながら地元の皆さんとともに検討をさらに進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいた

します。

以上でございます。

○ 議長（下村 栄君）佐藤論征議員。

〔2番 佐藤 論征君登壇〕

○ 2番（佐藤 論征君）ご答弁をいただきました。財源確保の問題等非常に問題は山積と思われるところでございます。トレーニング施設が建設されれば、上田市にとりまして非常に経済効果の高い施設となります。また、近隣市町村からも非常に期待をいただける施設であり、上田市がこの地域の中心的な役割を担える絶好のチャンスであります。建設について強く要望申し上げまして、次の質問に移らせていただきます。

次に、NHK大河ドラマ放映についてお伺いいたします。5月12日に2016年のNHK大河ドラマが真田幸村を主人公とした「真田丸」に決定したことを受け、真田氏発祥の地である真田地域においては、既に関連する名所旧跡などを訪れる観光客がふえ始めております。非常に喜ばしいことではございますが、その反面、観光客がふえたことにより、駐車場、トイレ等が不足するとともに、名所旧跡などに続く幅員の狭いアクセス道路でのすれ違いができないなど早速問題が出始めております。今後もさらなる観光客の増が予想される上、物理的に全面改良等に必要な用地買収を行う時間もない中、問題解決が急務となっております。

先日の市長の施政方針におきましても、「千載一遇のチャンスを生かし、限られた時間の中で知恵を絞って、上田市を訪れるお客様に喜んでいただける受け入れ態勢づくりを進める」との心強い指針をお出しいただいたところでございますが、具体的にどのように今後していくか、どのように対応を講じていくかお尋ねいたします。

○ 議長（下村 栄君）高橋真田地域自治センター長。

〔真田地域自治センター長 高橋 義幸君登壇〕

○ 真田地域自治センター長（高橋 義幸君）NHK大河ドラマ放映に伴います真田地域への受け入れ態勢の整備等についてでございます。

真田地域は、全国に多くのファンを有する真田幸村公を初めとする真田三代の発祥の郷として、多くの観光資源を有している地域でございます。

地域内は、国道144号線が南北に横断をしているため、群馬方面等に向かう大型バスの交通量も多く、あわせて近年の歴史ブームを背景に歴史ロマンを抱き、真田地域を訪れる観光客も一段と増加をしてきております。

一方、真田地域の観光資源は、地域内に点在している点や中山間地域のため、道路の幅員も狭く、大型車の進入や車両同士のすれ違いも大変困難な箇所もあることから、地域内でのトイレや大型バス対応の駐車場、またアクセス道路等の整備が整っておらず、観光客の皆様には十分満足していただけていないのが現状でございます。

そこで、市では、これまで長谷寺のアクセス道路の一部改良などを行いながら、地域内に点在する観光資源を回遊するための電動アシスト付自転車15台の無料貸し出し、また真田三代ウォーキングマップの作成及び案内看板の整備を行うとともに、昨年はジャンボタクシーによる周遊ツアーを実施するなど観光振興を図ってまいりました。また、昨年10月1日からの料金低減バスの実証運行に合わせまして、「真田氏歴史館」や「御屋敷」方面へ連絡をする新たなバス路線を運行しているところでございます。

そのような中、去る5月12日、NHK大河ドラマが「真田丸」に決定した旨の報道がございました。真田三代の歴史を展示いたします「真田氏歴史館」では、大河ドラマ決定直後から多くの観光客の皆様が入館されておりまして、5月は昨年を大幅に上回る入館者となりました。

このような状況から、今後、大河ドラマの放映に伴い、真田地域内に想像以上の観光客がこれまで以上訪れることが予測されますことから、時間的な制約もある中、大型観光バス対応の駐車場や観光客の皆さんにご満足いただけるトイレの整備等、早急に検討を進めてまいりたいと考えております。

また、真田氏ゆかりの史跡等へのアクセス道路につきましては、地形的、期間的な点を考慮し、今後、地元関係者及び土地所有者のご理解をいただく中で、待避所または部分的な改良計画を策定するなど検討を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○ 議長（下村 栄君）佐藤論征議員。

〔2番 佐藤 論征君登壇〕

○ 2番（佐藤 論征君）放映までに非常に時間がない中、突発的な問題が数多くこれからも発生すると思われまします。市長がおっしゃられる上田市を訪れるお客様に喜んでいただける受け入れ態勢づくりの見地に立ちまして、柔軟なご対応をいただけるよう希望するものであります。

次に、脚本家への働きかけについてお伺いいたします。NHK大河ドラマが「真田丸」に決まったことを受け、安堵したところではございますが、市民の皆さんの声をお聞きいたしますと、果たして上田市が舞台の中心になるだろうかというような不安を抱く声も多く聞かれるところではあります。

そこで、市といたしましても、受動的な立場をとるのではなく、脚本家の三谷氏に対し資料提供するなど積極的な働きかけをするべきと考えるところでございますが、いかがお考えになりますでしょうか。

また、上田市と真田氏のかかわりについてより理解を深めていただくためにも、三谷氏を上田市に招待するような機会があればと考えるところでございますが、三谷氏を招待するようなことをお考えになられていますでしょうか。

○ 議長（下村 栄君）井上副市長。

〔副市長 井上 晴樹君登壇〕

○ 副市長（井上 晴樹君）大河ドラマ「真田丸」の脚本を担当する三谷幸喜氏への資料提供などの協力あるいは招聘というご質問であります。この三谷幸喜氏は、NHK大河ドラマの「新撰組」の脚本や映画の「清洲会議」などの監督をされております。三谷さん自身、歴史にも大変造詣が深く、演劇のほうにもその才能が発揮されておるとお聞きしております。戦乱の荒波を乗り越えた真田家や真田幸村の生きざま、また大阪冬の陣真田丸での活躍がどのように描かれるのか、大きな楽しみにしておるところでございます。

放映決定のご連絡をいただいた翌々日には、母袋市長がNHK長野放送局を訪問いたしまして、御礼とともに懇談も行っておりますけれども、その際NHKからは、「長野局の裁量でできる部分もあるので、上田や県全体の活性化につなげていけるよう全力で取り組むので、いろいろなネタを提供してほしい」と、また「こんなことはできないかと遠慮なく提案していただきたい」とのお話もいただいております。

このドラマについては、全体の構想あるいは脚本の執筆が既に進んでいるものというふうに思いますが、今後、真田氏関連の資料収集や現地取材あるいはロケ地の選定などで上田市としてもご協力できるこ

とがあれば、これは全面的にご協力をさせていただきたいというふうに考えております。

また、上田市にとりまして、今回の大河ドラマの放映は非常に大きな出来事でございます、真田氏発祥の地として市民の皆さん全体の盛り上がりが必要と思っていますので、脚本を担当されるこの三谷さんに上田においでいただくことができましたなら、これも大変意義のあることだというふうに思います。

先ほど申し上げました市長が長野放送局を訪れた際も、上田においでいただく機会をつくってほしいとの要望を伝えまして、「本局に頼んでみる」とのお返事もいただいております。今後とも積極的な働きかけを我々も行っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○ 議長（下村 栄君）佐藤論征議員。

〔2番 佐藤 論征君登壇〕

○ 2番（佐藤 論征君）三谷氏も非常にお忙しい方だと思います。何とか上田市にお越しいただくようお願いしたいと思います。市としては受動的な姿勢をとるのではなく、常に能動的な姿勢でこの千載一遇のチャンスを最大限に生かせるようにしていただくことを要望いたします。

次に、中学校における朝の部活動についてお尋ねをいたします。本日、池田議員からも中学校の朝の部活動につきまして質問がなされたわけですが、少々切り口を変えまして質問させていただきます。

上田市は、県の指針を受け、中学校における朝の部活動を急遽4月から各学校長の判断に委ねたことにより、各中学校での朝の部活動の状況に非常に差が出ております。また、県内の他市町村では、経過を見守る措置をとっている市町村も数多く、他市町村とも大きな差が出てきております。このことにより、生徒を中心に非常に混乱を招いております。特に部活動に対して熱心に打ち込んでいる生徒につきましては、大好きな部活動をやりたくてもできない状況にあり、一部メディアでは、上田市が部活動にいかにも消極的な地域として報道もなされております。昨日からさまざまな質問の中で、子育て世代の定住促進、児童生徒が上田で生まれて育ってよかったと思える施策というような答弁を再三いただいておりますにもかかわらず、全く逆行したことが教育現場において起こっておるところでございます。

このような状況は、子育てに力を入れる上田市にとりましても、非常に損失であり、子育て世代の流出、ひいてはトップアスリート、アーティストの育成の喪失にもつながるところであります。小山教育長も以前高校で部活動を熱心に指導されたとお聞きしておりますが、生徒たちの気持ちが一番わかるのではないかなと思います。今こそ生徒の気持ちを誰よりもおわかりになる小山教育長の手腕の見せどころではないかなと思うところがございます。

そこで、お伺いいたします。池田議員の質問に対する答弁では、生徒、保護者への説明を行っていくとのことまでのお答えでございましたけれども、現場での混乱を避けるため、そして何より部活動に一生懸命打ち込んでいる生徒の気持ちに応えるためにも、現在の市の方針を改めるお考えもしくは新たな措置を講じていくお考えはおありでしょうか。

私の最後の質問とさせていただきます。本日の議会中継、生徒も大勢見ております。注目しております。大好きな部活動が思うようにできないという生徒がいるということを念頭に置いていただきまして、お答えをいただきたいと思います。

○ 議長（下村 栄君）小山教育長。

〔教育長 小山 壽一君登壇〕

○ 教育長（小山 壽一君）中学生の部活動についてのご質問でございます。

基本的には先ほど池田議員にご答弁申し上げたとおりでございますが、県の教育委員会から「長野県中学生期のスポーツ活動指針」が出されました。この活動指針の基準は、先ほど池田議員の答弁でも申し上げましたように、1つ目としては、平日で1日、土、日はどちらか1日を休養日とすること。2つ目として、平日に部活動を行う時間は2時間程度とし、長くても3時間以内とすること。3つ目として、休日の活動は午前、午後に渡らないようにすること。そして4つ目が、朝の部活動は原則として行わない。この4つでございます。

このような指針が出された背景には、長野県の中学生の生活がバランスを欠いたものになっているのではないか。部活動が非常に大きな負担になっているのではないかなという実態でございます。少し数字を申し上げます。部活動への加入率でございますが、男子は72.1%、女子が47.2%、全体にいたしますと60.1%です。中学3年生について限定しますと、運動部、全国は66%の生徒が参加しています。長野県58.9%です。全国文化部19.6%です。長野県21.9%という状態です。どちらにも不参加であるという生徒、全国は12.9%、長野県は18.3%でございます。部活動は特に思春期の中学生にとって大変意義ある活動です。この参加率が低下傾向にあるということは、1つは、子供たちに非常に大きな負担がかかっているために、学年進行で部活動の加入率が低減していつているということが一方においてあるということが言えるわけです。また、そこら辺についてご理解をいただきたいと思います。

また、睡眠時間について申し上げますと、7時間以上の睡眠時間があるという生徒、全国は60.6%です。長野県57.1%です。これは全国学力・学習状況調査ですので、今申し上げたのは中学3年生の4月です。小学校6年生の4月です。全国は7時間以上の睡眠時間91.6%、長野県93.6%です。つまり小学校6年生では7時間以上寝ているという生徒、子供は全国よりも長野県のほうが多いわけです。ところが、中学3年生になると、全国に比べて長野県は低くなる、こういう傾向があります。

また、中学3年生です。2時間以上家庭学習が行われている。中学3年生30.2%、長野県です。全国36.5%です。1時間以上の家庭学習時間、小学校6年生、4月です。全国63.2%、長野県61.4%、ほぼ拮抗しています。この1時間以上、2時間以上というのは、校長先生方にお話をし、中学3年生の4月にどのくらいの家庭学習時間が適正であろうかということで実は2年ほど前に、中学3年生の4月、2時間やっていてくれるといいなど。小学校について言えば、大体学年掛ける10分、したがって。小学校6年生については1時間程度というような中ではじき出した数字でございます。

また、1時間目の授業、なかなか集中できない。どちらかといえば集中できない。これは長野県の独自調査です。27%の子が集中できない。どちらかといえば集中できないと答えおります。

睡眠時間について、睡眠時間は十分かという質問であります。どちらかといえば十分。十分。答えた生徒が66%おります。しかし、どちらかといえば不十分。不十分と答えた生徒は31%おります。この31%という数値、これを多いと見るか少ないと見るか。

ここで、やはり中学生のあるべき生活、中学生の基本的な生活のありようというものを考えてみる必要があるのではないかなと、こんなふうを考えているわけでありまして、学校ごとに県の指針を基準にしながら、生徒の健康、生活のリズムに配慮しながら、学校長の判断で部活動の時間を決定してくださいとお願いをいたしました。あくまでも県の基準に沿いながら、指針に沿いながらということでございます。



当然ことし学校ごとに実態調査を実施することになっております。既に実施している学校もありますが、そういう実態調査の結果なんかも見ながら、今後また改めて検討していきたいと、このように考えておりますので、よろしくご理解のほどをお願いいたします。

○ 議長（下村 栄君）佐藤論征議員の質問が終わりました。